

福岡

講演会：自然と共に森再生 アイヌ・貝澤さん、未来を見据えー福岡 /福岡

北海道平取町二風谷（にぶたに）のアイヌ民族、貝澤耕一さん（65）を招いた講演会「チコロナイとアイヌ文化」が10日、福岡市南区弥永のエスタスカーサであり、生物の多様性を守る自然林による森づくりに取り組む貝澤さんの話を基に熱心な議論が交わされた。

チコロナイとは、アイヌ語で「私たちの沢」という意味。94年に任意団体「ナショナルトラスト・チコロナイ」として発足し、貝澤さんは理事長に就任。01年にNPO法人となった。現在、二風谷に約26ヘクタールの山林を取得し、アイヌの民族衣装にもなるオヒョウニシなどを植林している。

貝澤さんは完全無農薬を実践する農家。二風谷ダム建設に反対した故貝澤正さんを父に持つ。「私たちは自然を変えようとしないうちがいい。むやみやたらな公共事業やダムは不要」と言い、人知を超える自然と共存する向き合いこそ求められるとした。そして、地道に植林や手入れをしている様子をスライドで紹介。「日本ほど水が豊かでありながら、おろそかにしている国はない。水を大切にしなければ」と力説し、200年先を見据えて森の再生を誓った。

参加者の男性は「いつの間にか利便性を追求し、人間の欲というものが段々と自然破壊に進んだのかもしれない」と貝澤さんの話を受け止めていた。【林田英明】

（福岡都市圏版）

毎日新聞 2011年12月13日 地方版